

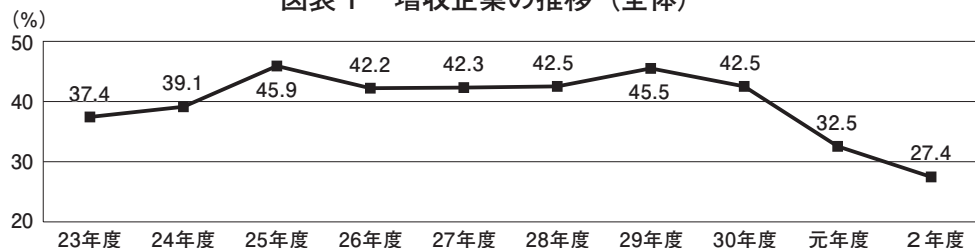
# 東京都中小企業収益動向調査

－令和2年度の収益動向と令和3年度の収益見通し－

## 1. 令和2年度の売上高の状況

令和元年度と比較した令和2年度の売上高の状況は、増加した企業（以下「増収企業」という。）が27.4%、減少した企業（以下「減収企業」という。）が72.7%となった。増収企業の割合は、前回調査と比べて5.1ポイント減少し、平成23年度以降最も低い値となった。

図表1 増収企業の推移（全体）

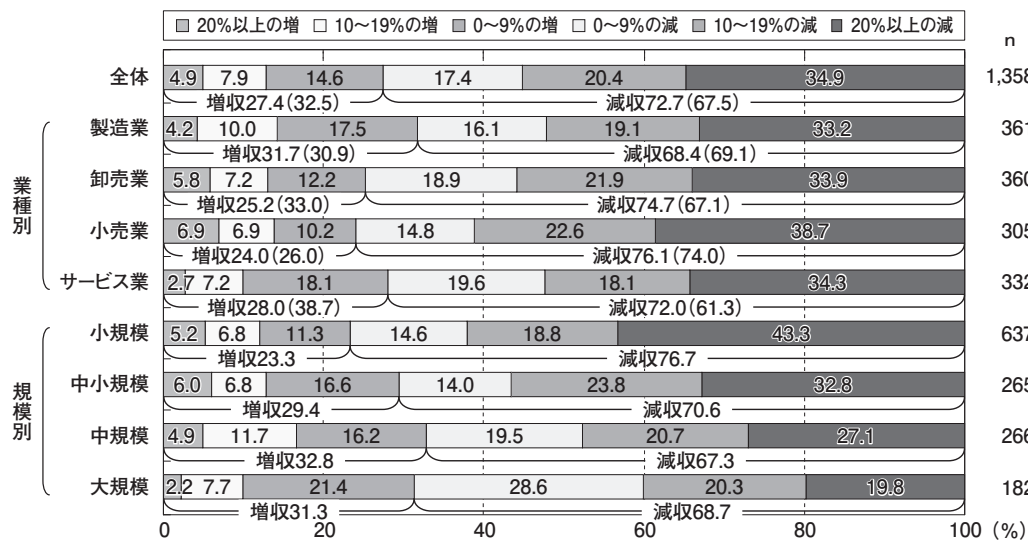


注) 無回答を除き集計。

業種別にみると、前回調査と比べて増収企業は卸売業（25.2%）が7.8ポイント減少、小売業（24.0%）は2.0ポイント減少、サービス業（28.0%）が10.7ポイント減少した。一方、製造業（31.7%）は0.8ポイント増加した。

規模別にみると、すべての規模で減収企業が7割程度を占め、増収企業を上回った。

図表2 令和2年度の売上高の状況（業種別・規模別）

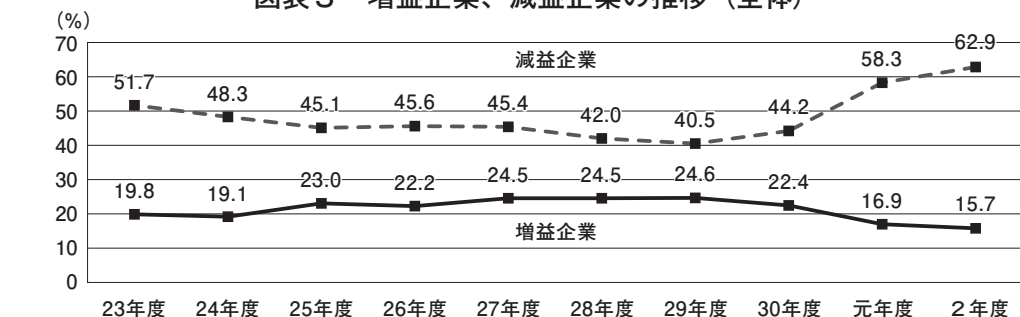


注) 無回答を除き集計。規模別は規模不明を除く。( )内は前回調査(令和2年9月)の数値。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

## 2. 令和2年度の経常利益の状況

令和元年度と比較した令和2年度の経常利益の状況は、増加した企業（以下「増益企業」という。）が15.7%、減少した企業（以下「減益企業」という。）が62.9%となった。前回調査と比べて増益企業（15.7%）は1.2ポイント減少、減益企業（62.9%）は4.6ポイント増加し、経常利益の状況は悪化した。

図表3 増益企業、減益企業の推移（全体）

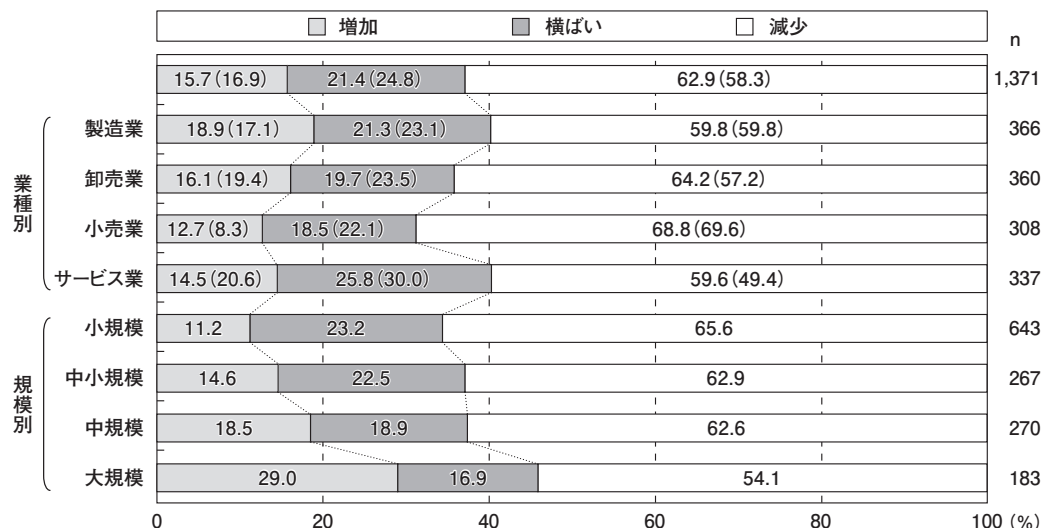


注) 無回答を除き集計。

業種別にみると、前回調査と比べて増益企業は製造業（18.9%）が1.8ポイント増加、小売業（12.7%）は4.4ポイント増加した一方、卸売業（16.1%）は3.3ポイント減少、サービス業（14.5%）は6.1ポイント減少した。すべての業種で減益企業が5割を超えており、依然として厳しい状況が続いている。

規模別にみると、規模が大きくなるほど増益企業の割合が高く、大規模では29.0%を占める。

図表4 令和2年度の経常利益の状況（業種別・規模別）

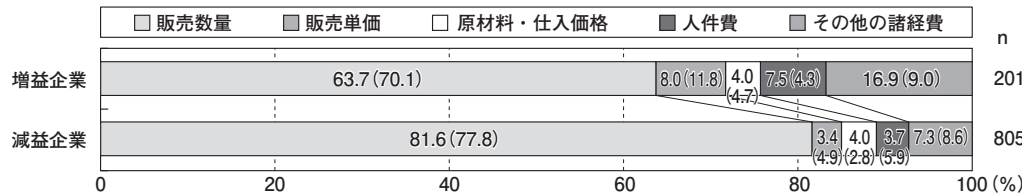


注) 無回答を除き集計。規模別は規模不明を除く。( )内は前回調査(令和2年9月)の数値。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

### 3 経常利益増減の主な要因

令和2年度の経常利益増減の主な要因は、増益企業、減益企業ともに「販売数量」が最も高い。前回調査と比べて増益企業は「人件費」(7.5%)が3.2ポイント増加した。減益企業は「販売数量」(81.6%)が3.8ポイント増加、「原材料・仕入価格」(4.0%)が1.2ポイント増加した。

図表5 増益、減益企業別の経常利益増減の主な要因

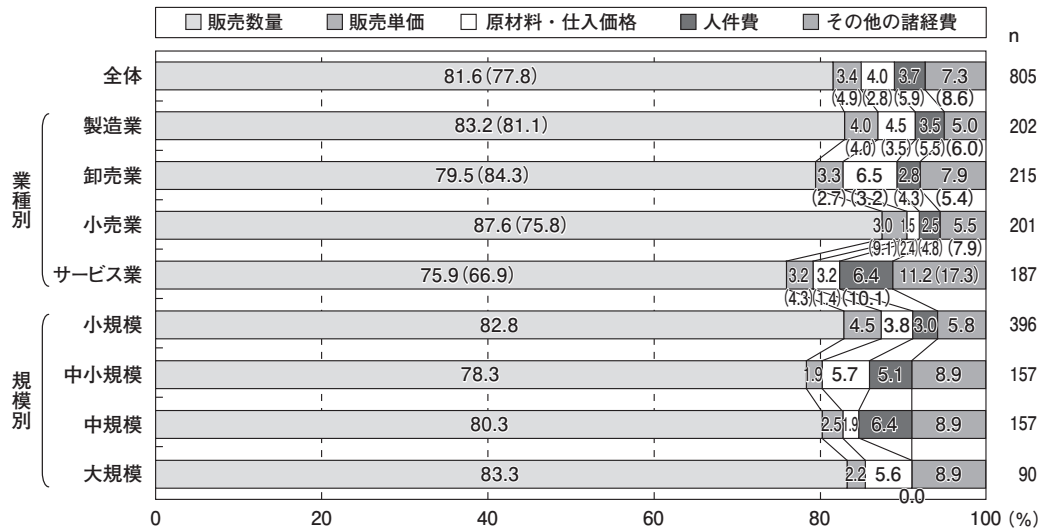


注) 無回答を除き集計。( )内は前回調査(令和2年9月)の数値。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

減益企業における経常利益減少の主な要因を業種別にみると、前回調査と比べて製造業、卸売業、サービス業は「原材料・仕入価格」の割合が増加した。また、他の業種に比べて小売業は「販売数量」(87.6%)が最も高く、前回調査と比べて11.8ポイント増加した。

規模別にみると、他の規模に比べて大規模は「販売数量」(83.3%)が最も高い。

図表6 経常利益減少の主な要因(業種別・規模別)

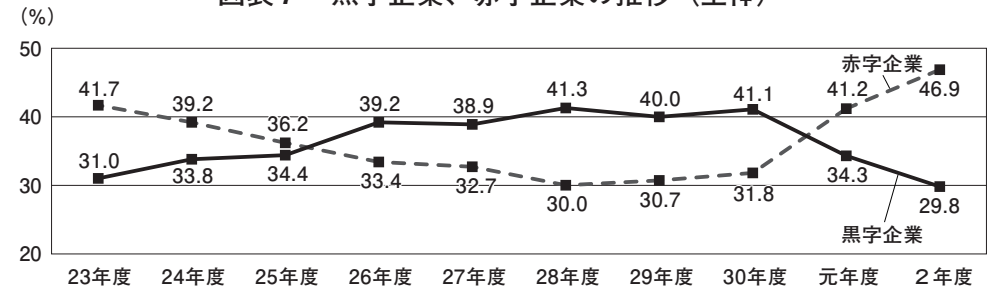


注) 無回答を除き集計。規模別は規模不明を除く。( )内は前回調査(令和2年9月)の数値。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

### 4 令和2年度の採算状況

令和2年度の採算状況は、「黒字」が29.8%、「収支均衡」が23.3%、「赤字」が46.9%となった。前回調査と比べて黒字企業(29.8%)は4.5ポイント減少、赤字企業(46.9%)は5.7ポイント増加し、赤字企業が黒字企業を上回った。

図表7 黒字企業、赤字企業の推移(全体)

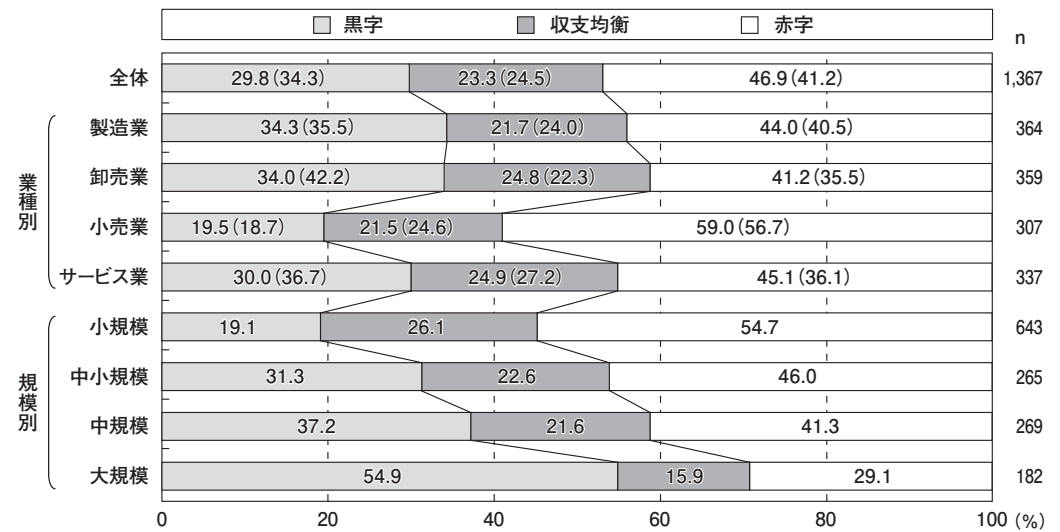


注) 無回答を除き集計。

業種別にみると、他の業種に比べて小売業は「赤字」(59.0%)が最も高く、前回調査と比べて2.3ポイント増加した。製造業、卸売業、サービス業の「黒字」は減少し、「赤字」は増加した。

規模別にみると、規模が大きくなるほど黒字企業の割合が高く、大規模では54.9%を占める。

図表8 令和2年度の採算状況(業種別・規模別)

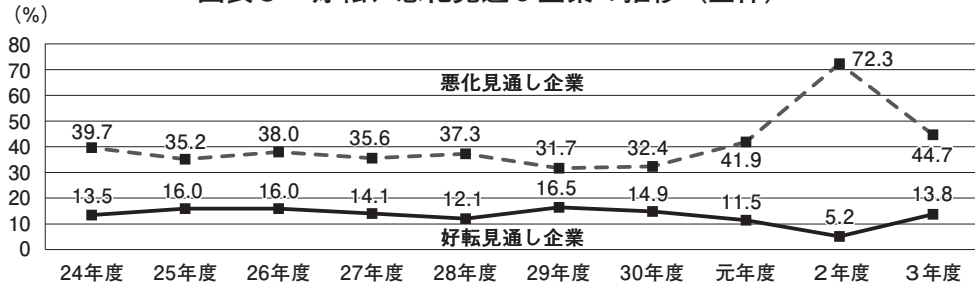


注) 無回答を除き集計。規模別は規模不明を除く。( )内は前回調査(令和2年9月)の数値。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

## 5 令和3年度の収益見通し

令和3年度の収益見通しは、「好転」が13.8%、「悪化」が44.7%となった。前回調査と比べて「好転」(13.8%)が8.6ポイント増加し、「悪化」(44.7%)が27.6ポイント減少しており、令和元年度の水準に戻りつつある。

図表9 好転、悪化見通し企業の推移（全体）

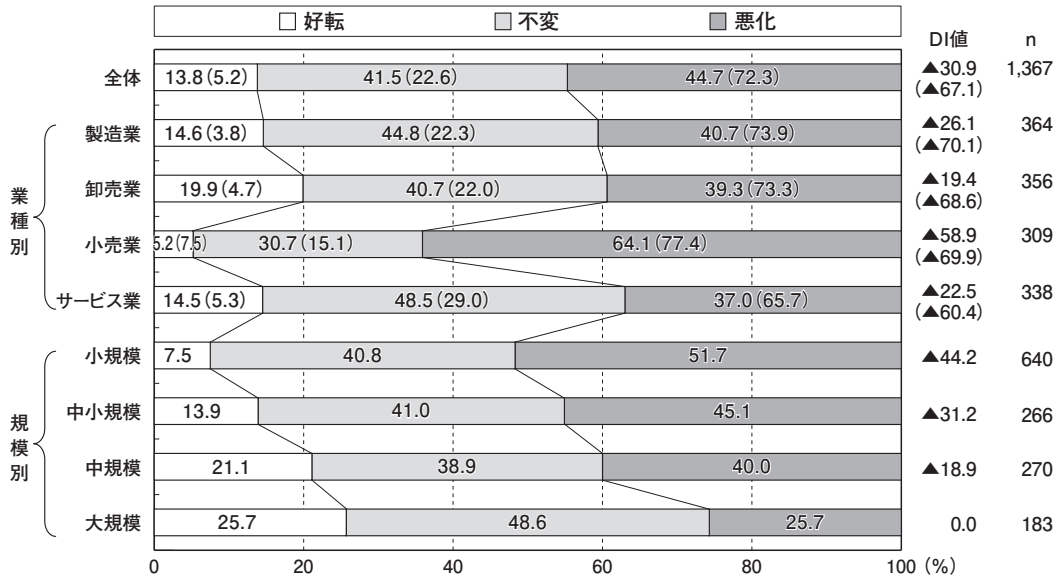


注) 無回答を除き集計。

業種別に収益見通しをDI値（好転－悪化）で見ると、すべての業種で改善した。なかでも製造業（▲26.1）と卸売業（▲19.4）はともに40.0ポイントを超える大幅な増加となった。

規模別に収益見通しをDI値で見ると、小規模は▲44.2、中小規模は▲31.2、中規模は▲18.9、大規模は0.0と規模が大きくなるほど高い。

図表10 令和3年度の収益見通し（業種別・規模別）



注) 無回答を除き集計。規模別は規模不明を除く。( )内は前回調査(令和2年9月)の数値。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。